

地域における男女共同参画を推進するためのプログラムデザイン

【事業名】 令和6年度防災力アップ研修
災害が起きたら！命を守る！備えは何？避難所はどこ？

【位置づけ】 苫小牧市男女平等参画推進センター（男女平等参画の意識改革事業）

問題現状 災害が発生した際、自衛隊など公的機関による援助（公助）を受けるまでに数日かかっている現状がある。（インフラの崩壊）その間は被災者自身（自助）もしくは被災者同士で相互に助け合うこと（共助）が必要となるが、何をどうしたらよいか分からないといった声も多く、あらためて防災に対する意識を高めるとともに、男女平等参画での視点を入れた対策法など知識を増やしておく必要がある。

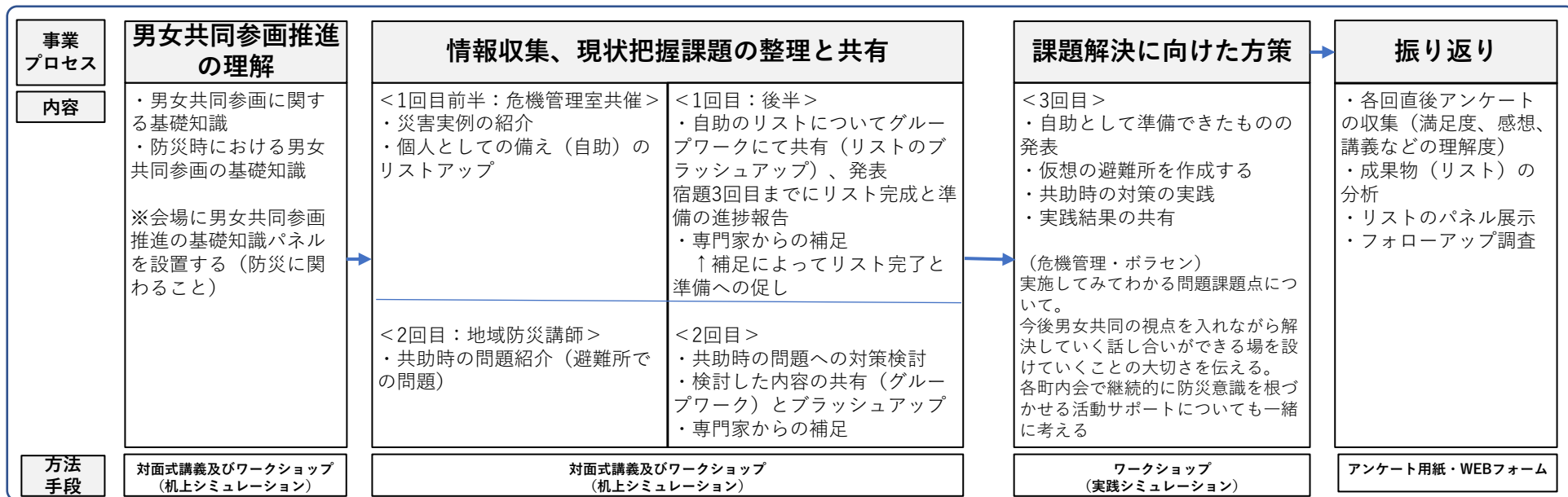
課題 災害が発生し避難所などでの生活を強いられた際、被災者同士での共助が必要となるが、その場を仕切るのはその地域のリーダー（町内会長など）が担うことが多い。一般的にはほとんどが男性であるため女性特有の問題を見落としがちで、女性にとっては二次被害を被る可能性もある。このような二次被害を防止するためにも女性視点の意見も取り入れた災害対策が必要である。

事業目的 災害時の一般的な対応策を検討するとともに、男女参画の視点から男性・女性それぞれ特有な問題とその対策について理解を深めるための取り組みを推進する。

対象定員 町内会（自治会）対象 30名（6名×5グループ：男女半々を想定）
※机上シミュレーションのみは6名×10グループ

事業目標 ①災害事例を基に災害発生時の問題を理解する。②男性・女性それぞれの視点からの対策を理解する。

評価指標 定員充足率70% 直後アンケート満足度70～90% 研修後3か月後の意識アンケート（取組度）70%



連携先 共催：苫小牧市危機管理室（苫小牧市町内会連合会）

期間回数 期間：3か月で研修2～3回 内容：1～2回目は講話とワークショップ（机上シミュレーション）、3回目は実践シミュレーション

予算 男女平等参画推進センター管理運営事業費

実施体制 主催：1～2回目：苫小牧男女平等参画推進センター職員2～4名、
3回目：苫小牧ボランティアセンター職員2～3名